

利便性を重視した観光案内ウェブサイトの構築 ～地図から検索する～

史 中超 研究室
1031160 富山 夏季

1. 研究背景・目的

現在、知りたいと思った情報はインターネットを用いてすぐに取り入れることができる。それは、観光地に関する情報においても同様だ。

たとえば、どこかへ出かけようとした時も目的地をインターネットの検索エンジンで検索すると、そのキーワードに関する様々な情報がヒットする。しかし、その情報が多すぎるゆえにユーザが求める情報をピンポイントに調べにくく、外出先などで知りたい情報をすぐに得ることが難しいと感じる人も多い。

2012 年度事例研究として行った「観光地の情報集手段における GIS 利用の提案」の中で行った調査から、観光に関する情報を地図などから視覚的に探すことができたならより便利になると思うユーザが多い中、あまりそれらが見受けられないのが事実であるということがわかった。

そこで本研究では、改めて現状の把握をした上で、ユーザが地図から情報を検索できるようなデザインの、利便性を重視したウェブサイトの構築を行う。

2. 観光案内ウェブサイトの利用状況の調査

観光案内ウェブサイトの利用状況を把握するため、インタビュー調査と公開されている主なウェブサイトの分析を行った。

インタビュー調査では、旅行が好きな 20 代から 30 代の男女 8 名に協力していただき、1)どのよう

にしてウェブサイトを利用するか、2)地図表示できるようなウェブサイトを利用したことはあるか、3)あったら便利だと思う機能などについてインタビューを行った。

インタビューでは、

- ◇ 項目がリスト上に表示されると目的地の位置関係がわかりにくい
- ◇ 分野が分かれているとそれぞれに対して調べなくてはならなくて不便
- ◇ 地図表示出来る機能があってもその機能知らない・見つけられない

などの意見があった。

観光案内ウェブサイトの現状調査では、どのような表現方法で情報をまとめているか分析した。対象ウェブサイトには各地の観光協会のページから「鎌倉観光公式ポータルサイト[1]」と、分野に特化している「食ベログ[2]」を設定した(図1)。



図1 調査対象のウェブサイト[1]

文献[1]は様々なカテゴリが設定され、各掲載項目にはカテゴリ別のタグが付けられている。カテ

ゴリを選択すると、そのカテゴリのタグが付けられた項目がサムネイルで表示される。それぞれの項目は3つの分野に関するカテゴリから検索することができ、その中に「鎌倉のどこへ行く」カテゴリとして地域別のタグは付けられているが、分野ごとに独立してしまっているため、目的別と分けて検索することはできない。また各項目の詳細ページでは、最寄り駅と住所が掲載されているのみで、地図などで視覚的に確認するには調べ直す必要がある。

文献[2]では、食に関する様々な店舗を調べることができ、レストランを調べることに特化している。そのため、他の分野の情報を調べることはできない。通常、場所・ジャンルなどのキーワードを入力し検索すると、それに当てはまる店舗などが、リスト上に表示される。デフォルトの表示はリスト形式だが、地図表示に切り替えることも可能だ。しかし、インタビュー結果からもあるように、地図表示ができるということをほとんどのユーザーは気づいていない。

この2つのサイトを例として、それぞれの分野に特化したウェブサイトは多数存在し、多くのサイトは情報をカテゴリ分けしカテゴリから検索したり、キーワードを入力して検索したりできるようになっている。地図検索ができるものもあるが、ひとつの分野のみの表示や、地図表示がユーザーに気づきにくいインターフェースであるなどの問題点も存在する。

3. ウェブサイトの構築

上記2の結果を基に地図検索の機能を取り入れたウェブサイトの構築を行った。言語にはHTML5、XMLJava,Scriptを用い、Googleがサービス提供しているGoogle Maps API3[3]を利用し、ウェブ上に地図を表示した。

構築したマップ(図2)では、表示スポットを「駅」「神社・寺院」など5つのカテゴリに分けそれぞれが別の目印で表示されるように設定した。地図下にはチェックボックスを表示し、チェック

により表示カテゴリを選択することができる。XMLファイルにデータベースを作成し、それを読み込むことで項目をページ上に表示することで、データの管理もしやすくした。



図2 作成したマップ

以上の情報を埋め込んでウェブサイトを構築した。

ユーザーが初めに目にするトップページにもマップを埋め込み、ユーザーがまず地図を利用するように誘導するデザインにした。従来のカテゴリ検索も利用できるように、地図検索・カテゴリ検索、それぞれのページを作成し、ユーザーが地図以外からも検索できるようにした。

4. まとめ

構築したウェブサイトを利用してもらい意見をいただいた。その中には「地図を中心としたデザインになっていて、地図検索を利用しやすい」や「表示するカテゴリを自分で選べるので、必要なものだけ表示して見ることができるのでわかりやすい」といった意見が多くあった。

しかし、改善できる点も多く、よりユーザーが使いやすいウェブサイトにするためにユーザーのニーズを反映していくことが必要である。

5. 参考文献

- [1] 鎌倉市観光協会：鎌倉観光公式ポータルサイト 鎌倉 INFO <http://kamakura-info.jp/>
- [2] 食ベログ <http://tabelog.com/>
- [3] Google Maps API V3 <https://developers.google.com/maps/documentation/javascript/?hl=ja>